

公明党

市民の生命や生活を守るための
防災・減災の取組は

小泉 宣子



問 市民の生命や生活を守るための防災・減災の取組は。

答 市長／本市では、これまでも地震や津波、洪水などの自然災害に対応するための防災・減災対策を最重要課題の一つとし、市内各地域の特性に応じた地震・津波対策や大規模災害への対応などに取組んできた。また、令和二年八月には、水害の軽減についての協議や情報共有を行う狩野川流域治水協議会に参加し、国や県、近隣市町との連携を図っている。令和三年度からスタートする第五次沼津市総合計画においても、災害に強いまちづくり、強靱な地域づくり、自主防災力の向上などを基本施策として位置づけており、市民の生命、財産を守るとともに、誰もが安全・安心を実感できるまちづくりを推進していく。

問 施政方針に掲げる誰もが安全・安心のもと暮らすことができるまちをどのように目指すのか。

答 市長／災害は起きるものとして、行政、地域、企業、市民の一人一人が災害リスクを認識し、危機意識を持ち、それぞれが対応策を持って連携して取り組むことで、安全性が向上し、安心して暮らせるまちになると考えている。

問 生活困窮者に対する支援の取組は。

答 市長／生活困窮者に対しては、それぞれの事情に応じたきめ細やかな情報提供や助言を行い、緊急保護費や住居確保給付金の支給及び就労・学習などの自立相談支援を実施している。さらに支援が必要な場合には、生活保護制度を適用し生活の安定を確保する中で、就労などの自立支援を行い、再起を促している。令和三年度においても家計の改善に係る支援事業を新たに開始するなど、生活困窮者の早期自立に向けた取組を、より強化していく。



▲生活困窮者からの様々な相談に対して助言・支援を行っている

立憲沼津

沼津駅周辺地区を質の高い
まちなみ景観にするための取組は

梅沢 弘



問 沼津駅周辺総合整備事業において、整備予定の鉄道高架構造物は、長さ約五キロメートル、最大の高さが約十五メートルに及ぶコンクリート壁であり、その存在は、沼津駅周辺の景観を大きく損なわせるものであると考えますが、①本市の認識は。②本市の目指す質の高いまちなみ景観に向けた取組内容は。

答 市長／①鉄道高架構造物は、橋梁形式であるため、高架下に広大な空間が生まれ、その高架下に通路を整備することにより、駅の南北を自由に行き来することが可能となるほか、回遊性が生まれ、



▲高架下の空間を活用したイメージ図

南北の市街地の一体化やまちなみにぎわいが創出されていくものと考えている。本構造物を整備する際は、駅周辺に圧迫感を与えない景観に配慮した空間デザインとなるよう取り組んでいく。②沼津駅周辺地区を、人中心の空間として再編するため、公共空間再編整備計画を令和三年度に策定し、併せて沼津市景観計画の見直しを行う。今後は、県をはじめとした関係機関と連携の上、質の高いまちなみの景観を形成し、市街地環境の改善や都市の魅力向上に取り組んでいく。

問 沼津市営住宅条例では、入居の際、連帯保証人を求めているが、連帯保証人の確保が困難で生活が困窮している市民の立場に立ち、本条例を改正し、連帯保証人の要件を外すべきであると考えますが、本市の認識は。

答 市長／市営住宅への入居を希望している生活困窮者が、連帯保証人の確保が困難なために入居できないといった事態が生じないよう、連帯保証人と同じ役割を果たす機関保証の導入について検討を進めている。機関保証は、本条例を改正することなく導入が可能であることから、早期導入に向けて手続を進め、連帯保証人の確保が難しい場合の入居の円滑化を図っていく。